

新年度の人事異動で、この4月から当院事務長が交代しました。長谷川新事務長にあいさつ文を書いてもらいました。また、摂食嚥下訓練などを行う専門職“言語聴覚士(ST)”が2名体制になりましたので、紹介させていただきます。



上写真左；長谷川事務長

上写真右；飯田・五十嵐 言語聴覚士

豊栄病院事務長就任挨拶 長谷川 嘉彦

令和4年4月より事務長を拝命いたしました長谷川と申します。当院は、平成9年9月現在地へ移転新築して早25年が経過しようとしています。地域の皆様から信頼される病院となるよう日々努力しているところです。新築移転した当時とは社会情勢や医療情勢も大きく変わり、中でも少子高齢化の進展が病院運営に大きな影響を与えています。新聞等でも度々取り上げられているとおり、「地域包括ケアシステムの構築」「地域医療構想」「医師の働き方改革」等への対応をしていくことが求められており、日々頭を悩ませています。団塊の世代が75歳となる2025年が1つの目途となりますが、医療や介護を必要とする方は今しばらく増える一方で、労働力人口が減っていくことにも対応していかなければなりません。医療需要や介護需要に合わせて変化していかなければ医療機関としての継続も難しくなってきます。地域のニーズを的確に把握しながら、医療サービスの向上に努めていきたいと考えています。

病院で働く看護師や介護職員の採用についても大きな課題と認識しています。当院での勤務に少しでも興味があるようでしたら施設見学等は随時受け付けていますのでホームページ等からお問い合わせください。職員が安心して働ける環境づくりにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

地域の皆様が安心してご利用いただける医療施設づくりに取り組んでいきますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

この春より2名体制となりましたリハビリテーション科 言語聴覚士についてご紹介いたします。言語聴覚士という名称をご存知でしょうか。Speech Therapistなどを略して『ST』と呼ばれることもあります。言語聴覚士は摂食・嚥下の問題にも専門的に対応したり、ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。

当院は北区唯一の救急告示病院であり、また多数の高齢者施設などの協力病院となっているため、STが対象とする患者さんの9割以上は誤嚥性肺炎による摂食嚥下機能障害です。退院後も入院中同様に安全に安定した経口摂取の継続ができるよう、日々摂食嚥下訓練を行っています。また物忘れ外来においては認知機能検査などもおこなっております。ST室以外での業務が多くST室は不在がちなため、いつでも連絡がとれるようPHSを持ちながら院内のあちこちで業務に励んでおります。

今月号も、上記ニュースタイトルは、ウクライナ国旗の色をイメージしました。一刻も早く戦争が終わることを切に願います。

発行責任者；豊栄病院病院長 宮島 透